

道伝えの日 芭蕉忌句会 入賞句

○兼題句「芭蕉忌」

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔推選〕

三二、堤防の野花手折りし芭蕉の忌

小林 光代

素直なところが良い

四五、翁の忌文字薄れたる顕彰碑

高木 みつ江

芭蕉忌という時代を経た歴史がうまくとらまえている

七、山鳥の羽音に<sup>お</sup>ぢし芭蕉の忌

安藤 桂

芭蕉忌という季語の背景をよくとらまえている

・互選

〔一席〕

二三、葉さす古書の可<sup>あたら</sup>惜し翁の忌

今寺 久枝

〔二席〕

三四、巾着に通す朱の紐翁の忌

栗田 美由紀

〔三席〕

四、時雨忌のしぐれに逢へり旅靴

柴田 恭子

一七、芭蕉忌や夕空映す手水鉢

奥田 貴美子

四〇、起きしなの白湯に安らぐ翁の忌

澤木 正子



道伝えの日 芭蕉忌句会 入賞句

○当季雑詠句(秋・冬)

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔推選〕

一九、積み上げて星の瞬き今年藁

田村 喜栄

景色が大きい

五四、日本中仏の声や曼珠沙華

倉田 玲子

曼珠沙華の季語が良く効いている

五六、こぶし拳ほどの小さき墓石や赤のまま

伊藤 浩子

旅の芭蕉を思わせる

・互選

〔一席〕

一六、笑ふほか無き物忘れ冬うらら

清水 京子

〔二席〕

三、かぼちゃ南瓜つる引くや夕日の転がり来

谷口 ふさ子

二九、みだれ萩何を問ふてもうなづけり

黒川 みつ恵



○当季雑詠句(秋・冬)

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔飛驒神岡高等学校〕

入賞	廃校のスベリ台の上赤とんぼ	一年	井上	愛理
〃	アルプスの太陽見える寒き朝	一年	谷口	皓生
〃	テストまで流るる日々や鰯雲	一年	中田	大葵
〃	屋上に立っても届かぬ天高し	二年	古田	雅人
〃	足下へと集まってくる秋の声	三年	小木曾	都

〔吉城高等学校〕

入賞	通知表開いてみれば秋麗	一年	河合	直緒
〃	テストの日ゆつくり帰るそぞろ寒	一年	中井	一生
〃	流れ星君の隣で何願う	一年	築山	凜
〃	読み終えた推理小説秋うらら	一年	西村	侑真
〃	靴底の色染み取れぬ山ぶどう	一年	三浦	大生

